

Ⅱ. 概説 1－1 日本大学学生像

■女子学生は3割強

第1章1. 性別 男性 (64.5%) : 女性 (35.5%)

■自宅通学者が6割

第1章4. 住居形態 自宅通学者 (59.2%)

■勉学は授業やノート中心で

第2章1. 勉学態度 教科書・ノート中心 (58.1%)

■空き時間は学生食堂・カフェテリア，図書館で

第2章6. 空き時間を過ごす場所 学生食堂・カフェテリア (42.6%)，図書館 (42.1%)

■学生生活での重要視することは，授業，次に人間関係

第3章3. 学生生活で重要視すること 授業・ゼミ (59.2%)，人間関係の構築 (37.3%)

■クラブ・サークルに6割の学生が所属

第4章5. 課外活動への参加状況 所属している (59.8%)

■心配事は勉学

第5章1. 不安・悩み・問題 (トラブル) の種類 勉学上のこと (58.8%)

■6割の学生がアルバイトをしている。「生活」のため

第6章1. アルバイト経験の有無 現在している (62.4%)

第6章3. アルバイトの動機・目的 生活費・食費のため (44.1%)

■入学後の満足感は高い，日大に誇りを持っている

第7章3. 入学直後の意識・行動 今の学部に入って良かった (80.2%)，日大に入って良かった (76.0%)

第7章5. 現在の意識・行動 日大生であることに誇りをもっている (44.9%)

■学祖の名前は6割の学生が知っている

第7章5. 現在の意識・行動 学祖名を知っている (58.3%)

■将来に対して「能力」の心配

第8章3. 将来についての不安 自分の能力でやれるか (36.4%)

概説 1 - 2

★学生の経済的背景

日本大学の学生の経済事情を直接的に聞く質問は設定されていません。しかし、アルバイトの状況及びアルバイトの動機・目的、また、家計支出による修学の困難性を聞く質問から推し量ることは可能かと思われまます。さらに、奨学金制度の利用状況及び必要度も関連すると考えられますので、これらを総合して学生の経済的背景を見てみます。

*日本大学の学生の経済状態は好転しているかのように見えます。

*アルバイトは「生活費・食費のため」が4割を超えています。

*奨学金貸与が増え、給付が減少。将来の負担が増えることになり、返済できる仕事に就くことが必要となり、貸与を受けてでも入学した甲斐がある大学でなければと思われまます。

- ① 保護者等からの支出のみで修学上経済的に問題を抱えている学生は、やや減少しました。
- ② アルバイトの動機・目的からは、「生活費・食費のため」に働く必要がやや減少していますが、「授業料・勉強費のため」は平成24年度調査と変化はありません。
- ③ 奨学金貸与利用者は増加しています。修学継続困難学生の約50%が奨学金貸与を受けています。保護者等からの支出で「修学に不自由」と「修学継続困難」な者は奨学金に頼っていると言えます。しかも、給付は「修学に不自由」で15.9%、「修学継続困難」で17.8%と少なく、「修学に不自由」及び「修学継続困難」学生は卒業後に負担が残ることになります。

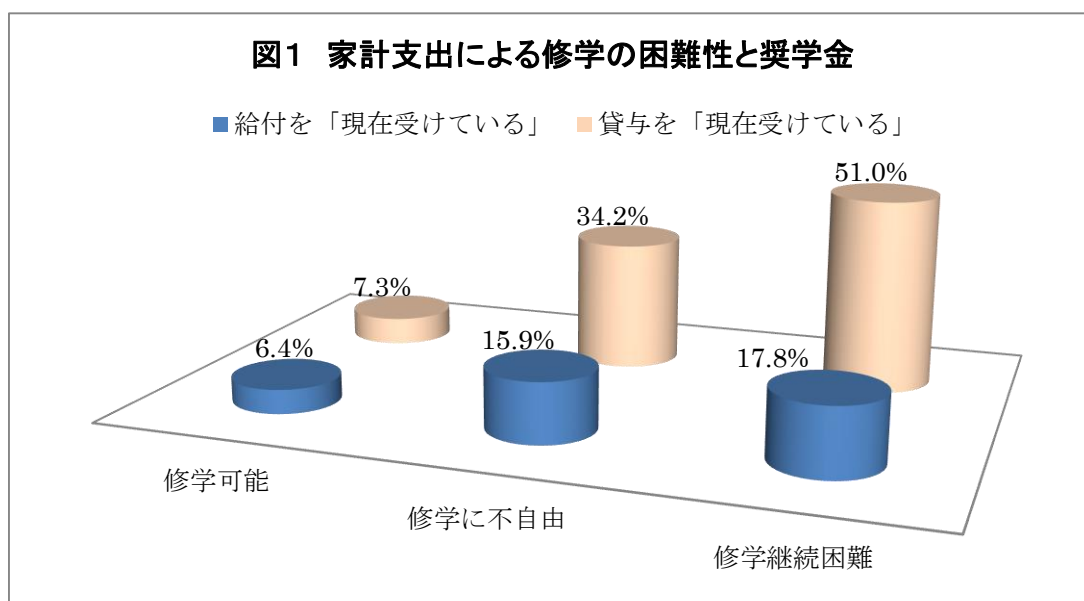


図2 家計支出による修学の困難性(%)

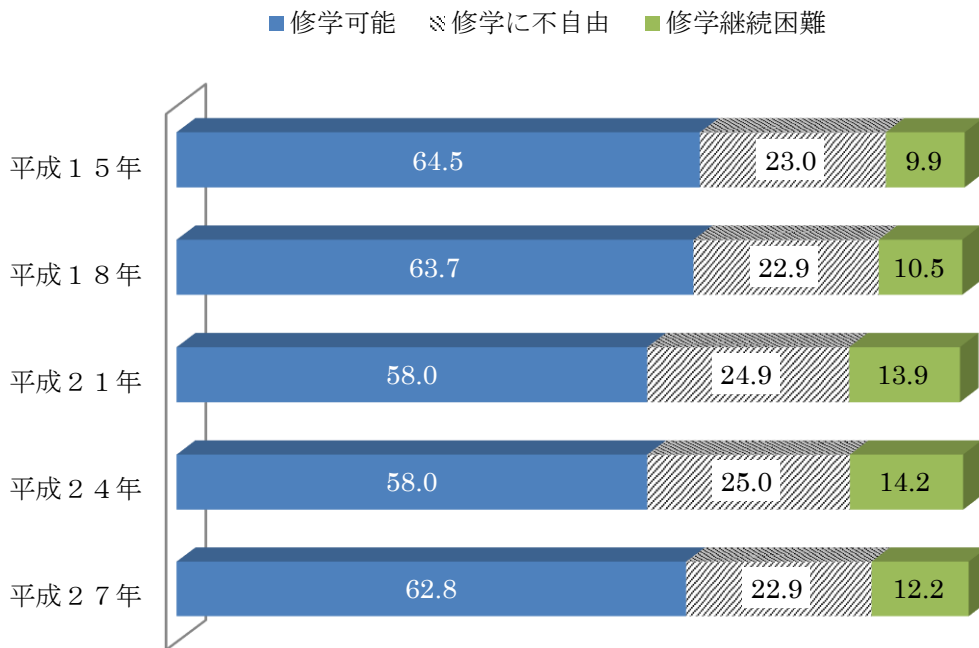
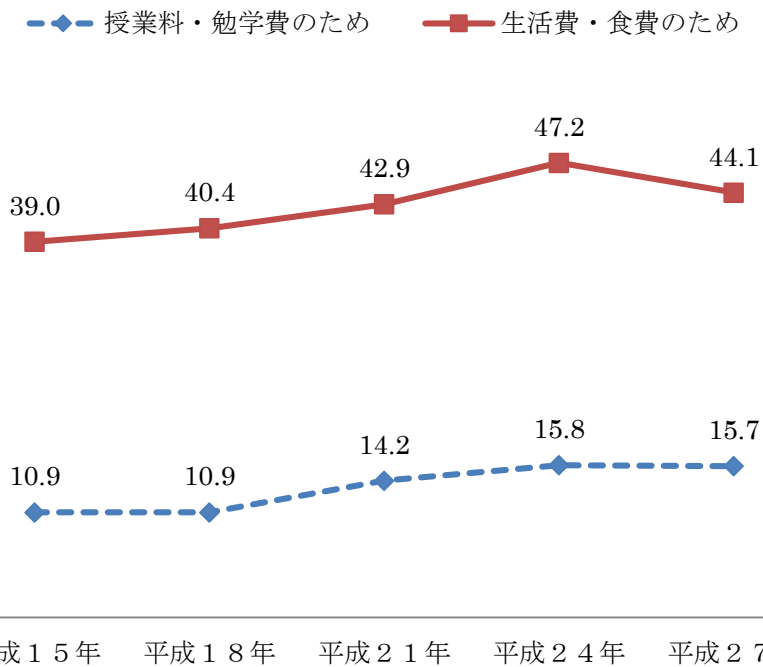
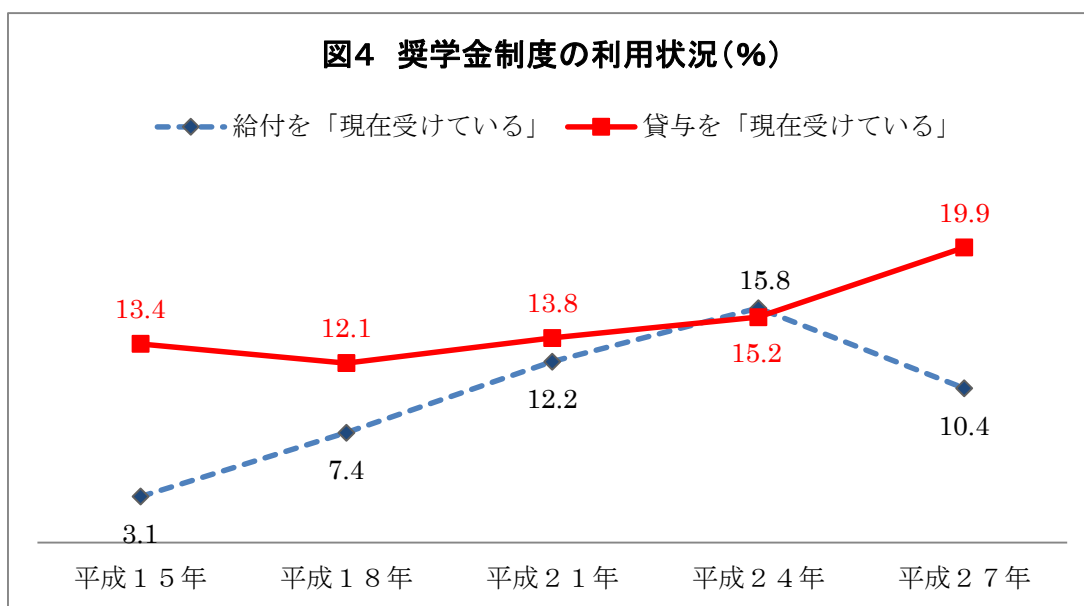


図3 アルバイトの動機・目的(%)





★教育目標（学修実態について）

* 日本大学学生の自主創造力は十分とは言えません。

* 自主創造力の養成は4年次に成果が現れるも十分とは言いきれません。

学生が大学で身につけるべき力として以下のものがあげられます。これらの力は日本大学が勧める自主創造を反映するものと思われ、これらを総称して自主創造力としてみました。これらの力は大学が学生に期待するものであり、教育の成果となるべきものでもあります。これらの力を十分に身につけてもらうことが大学の使命となると考えられます。

以下のグラフで自主創造力の身につけていると学生が考える実態について示します。図5・図6からもわかりますように、身につけている力が「十分ある」と回答した率が、特に（1）社会で役立つ知識・学力が11.4%、（2）日本についての知識7.2%、（3）世界についての知識6.9%とかなり低くなっています。知識・学力に関して学生自身の意識として身につけていないと考えているようです。これらについては学修によって身につくものですから、学生の意欲、動機づけなどを配慮して身につけさせたいものです。また、全体で他の領域についても十分身につけている割合は3割を超えるものはありません。4年生になって協調性と適応力においてのみ30%に達しています。

図5 自主創造力 全学
 (身につけている力が「十分ある」と回答した率%)

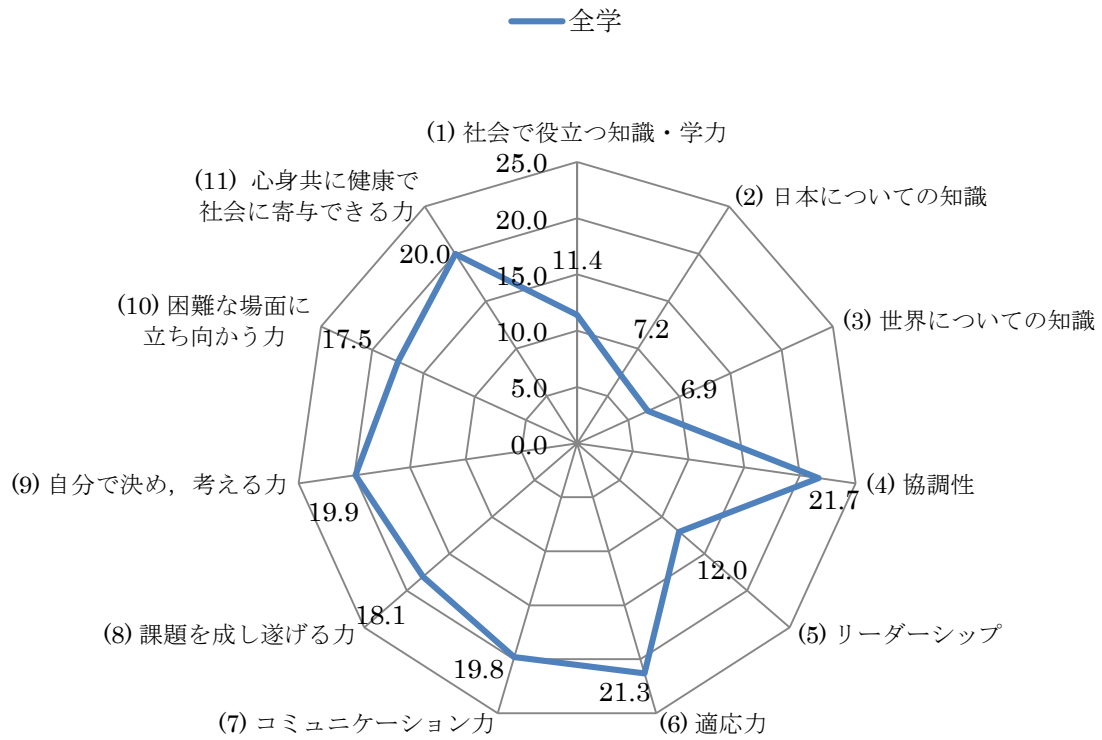
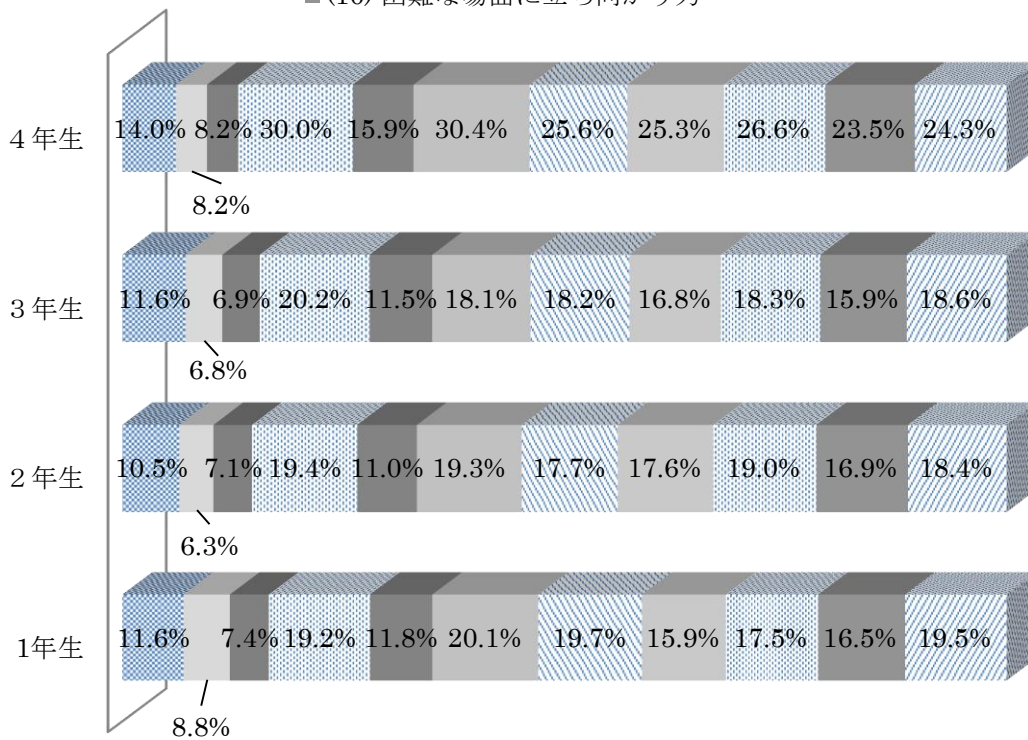


図6 学年別自主創造力(十分身についている率%)

- (1) 社会で役立つ知識・学力
- (2) 日本についての知識
- (3) 世界についての知識
- (4) 協調性
- (5) リーダーシップ
- (6) 適応力
- (7) コミュニケーション力
- (8) 課題を成し遂げる力
- (9) 自分で決め、考える力
- (10) 困難な場面に立ち向かう力

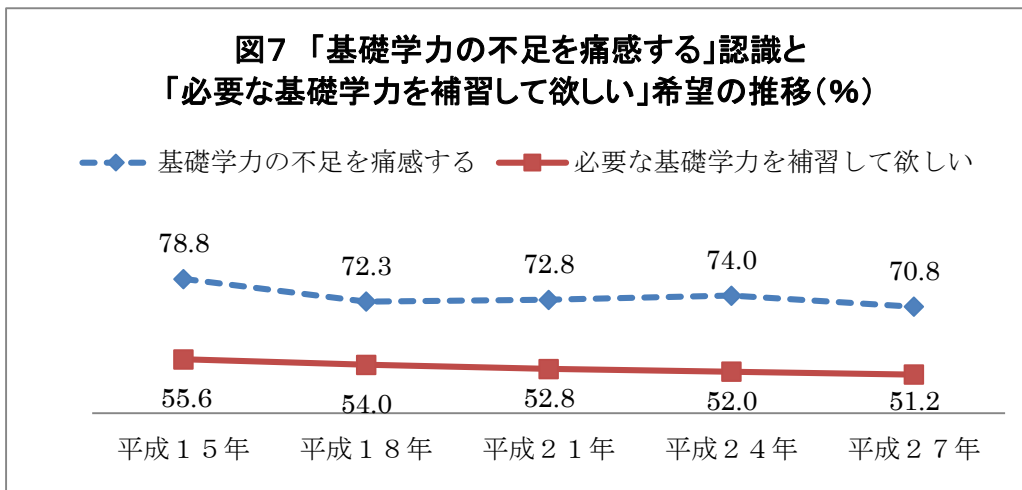


* 「基礎学力の不足を痛感する」という認識は平成15年度以来最も低い値となっています。

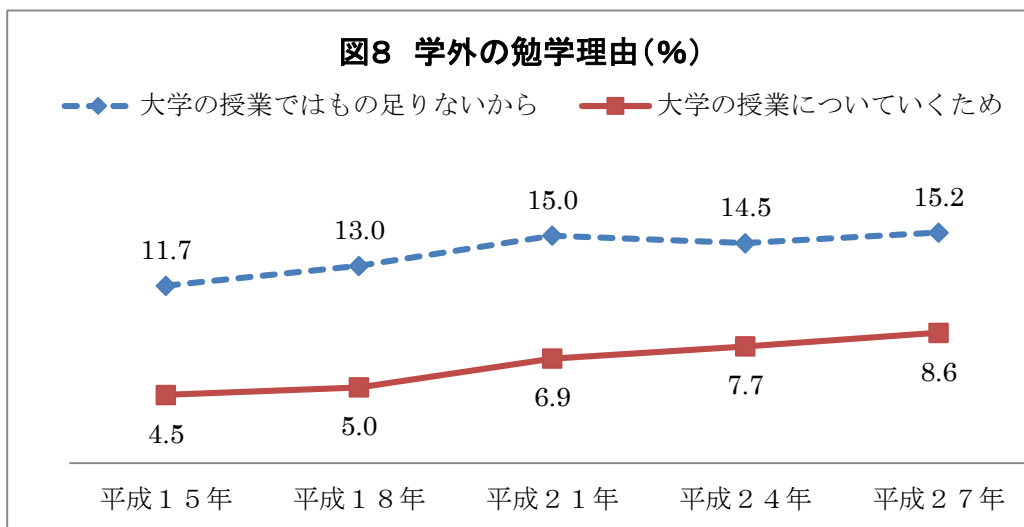
* 7割以上の学生が「基礎学力の不足を痛感する」と認識していることに対して解決されていません。

* 5割の学生が「必要な基礎学力を補習して欲しい」と希望しています。

「基礎学力の不足を痛感する」という認識は漸減しており、かつ、「必要な基礎学力を補習して欲しい」という希望も同じく減少傾向にあります。しかし、「基礎学力の不足を痛感する」認識が70%を超えている事が続いている事実が変わりありません。大事な項目と思われます。そして、5割の学生が補習を希望しているなら、この希望にどのように応えれば良いのでしょうか。



学外の勉強理由として「大学の授業についていくため」が微増していることも「基礎学力の不足を痛感する」認識、「必要な基礎学力を補習して欲しい」希望の高さに関連するのではと思われます。学力に不安をもつ学生に対しての導き方に工夫が必要かもしれません。



★生活習慣と勉学

- *学生の生活習慣への意識は高まっています。
- *朝食を摂っている学生は、自宅通学者は7割、一方アパート・マンション暮らしでは3割弱にとどまっています。
- *生活習慣がきちんとしている学生は勉学にも積極的。
- *健康のために定期的な運動と程よい睡眠は自主的な勉学を促進するようです。
- *飲酒習慣は過去最高になっています。

学生の健康への意識を「栄養のバランスに気をつけている」、「健康のために運動している」、「睡眠時間7時間以上」「午前0時前に寝ている」の生活習慣から見てみます。全ての項目において平成27年度は高い値を示しており、健康意識の高さを見せています。特に「栄養のバランスに気をつけている」で強い関心があることがわかります。学生食堂のメニューにはカロリーとともに栄養素表示がさらに詳細に表示されるようになると思われます。

次に健康意識の現われとして運動が上げられます。5割近い学生が健康のために定期的に運動をしていることは注目に値します。大学での健康管理サービスの充実が望まれるかもしれません。

生活習慣において朝食は重要事項ですが、自宅通学者とアパート・マンション暮らしでは朝食摂取率に差が生じています。やはり、アパート・マンションで暮らす学生の食生活は心配です。

生活習慣への関心は生活全般に関連すると思われれます。特に勉学との関連があるように推測されます。生活習慣と勉学との関連を見てみます。

「健康のために運動している」学生は運動をしていないと回答した学生より、有意に多く「授業はもちろんのこと、さらに自主的なテーマを設定して積極的に勉学に力を注いでいる」ようです。また、「授業よりはむしろ、自分で自由な考えによって積極的にテーマに取り組み勉学を進めている」においても有意に多くなっています。これらから、生活習慣がきちんとしている学生は勉学においても自主的・積極的であることがうかがわれます。

図9 健康意識(%)

■平成15年 ■平成18年 ■平成21年 ■平成24年 ■平成27年

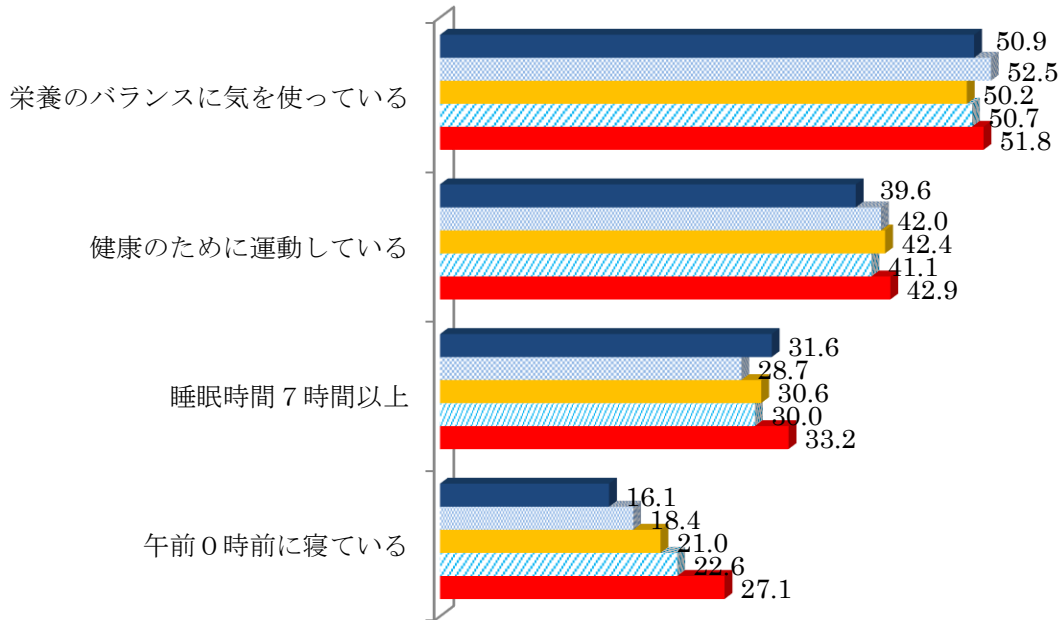


図10 住居形態別朝食摂取率(%)

■朝食を食べないことが多い「はい」 ■朝食を食べないことが多い「いいえ」

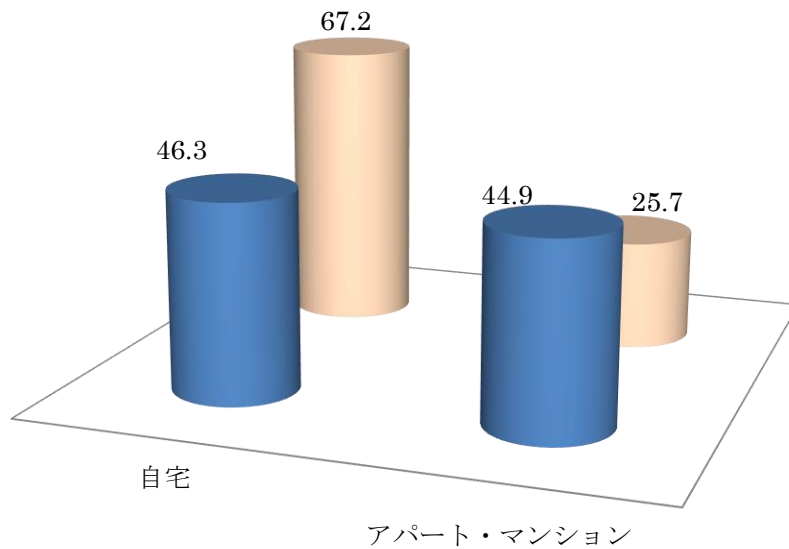


図11 「健康のために運動している」と勉強態度

■健康のために運動している「はい」 ■健康のために運動している「いいえ」

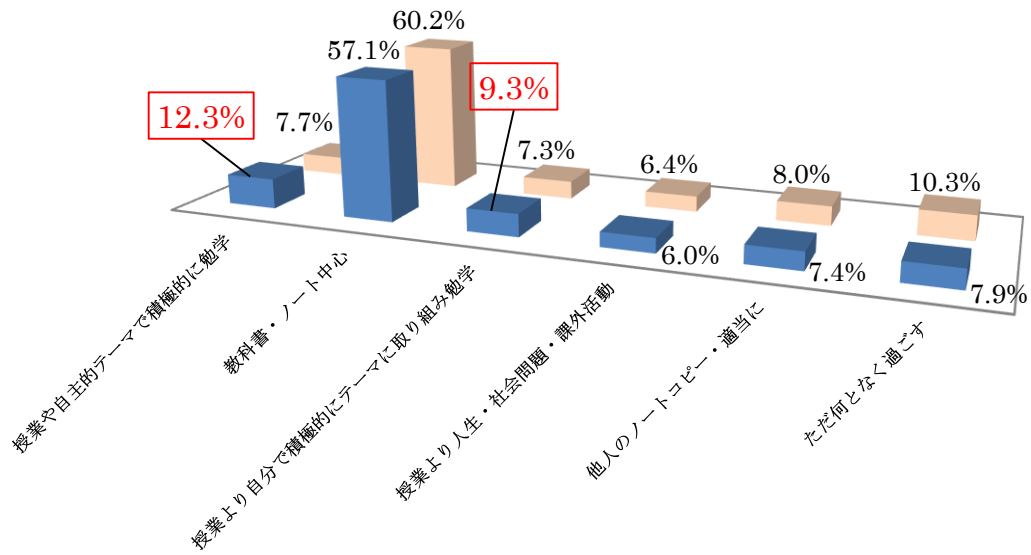
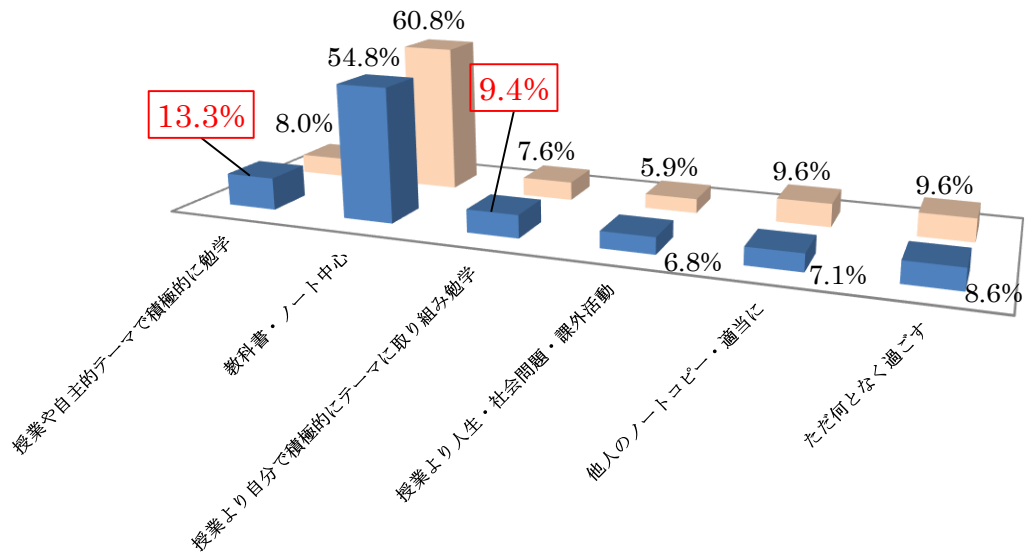
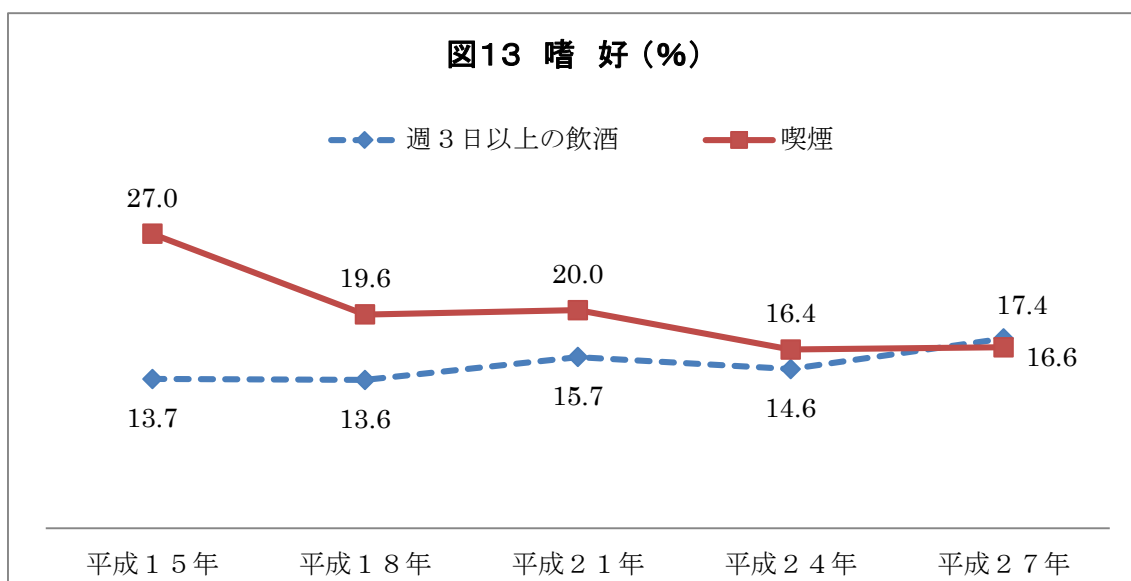


図12 睡眠と勉強態度

■普段は7時間以上眠っている「はい」 ■普段は7時間以上眠っている「いいえ」





喫煙や「週3以上の飲酒」の嗜好習慣は平成27年度において共に若干の増加を見えています。喫煙は平成24年度に平成15年度以来最低の率を示しましたが、やや戻しています。勿論、平成15年度の27.0%からは大幅な減少ではありますが。さらに、「週3以上の飲酒」は平成27年度が一番の率になりました。この背景については不明ですが、何らかの依存傾向が生まれているのでしょうか。

★大学への満足感（支援・サービス）

大学は学生への教育を行うために必要な資源を提供しています。教育の中には学生が学生生活を送る上でより快適な環境提供も含まれると考えます。

***支援・サービスは概ね高い満足感を得ています。**

***教育施設等のいわゆる教学的支援・サービスはやや、生活面の支援・サービスよりは満足感が高くなっています。**

***他学部情報を欲しています。**

支援・サービスを5領域で考えて見ます。図書館を代表とする、授業、勉学に直接関わる設備や施設等を＜教学的支援・サービス＞領域。課外活動や学生食堂などの日常生活を中心にした＜課外・生活等支援・サービス＞、教員の教え方、授業内容などの＜直接的教育＞、学生への通知や、窓口等の＜情報他支援・サービス＞、他学部との交流や情報に関する＜他学部情報・交流＞の5領域です。これらのうち教学的領域はかなりの満足感を得ています。特に図書館関連は高い評価になっています。

す。大学がこれらに積極的に力を入れていると思われます。その効果が顕著に表れているのでしょう。また、直接的教育領域も高い満足を得ています。教員の応対、教え方も7割を超える満足感です。これらに対して、課外・生活等支援・サービス、情報伝達や窓口といったものは高い満足にはなかなかならないようです。さらに、特異的なのは他学部の催しの情報入手及び他学部教員・学生との交流に関してで、この2項目が40%台の満足感でかなり低いものでした。日頃は他学部と関わることは少ないのが現状と思われますが、不満と思っていることは、逆に欲しているのではないかと考えられます。日本大学全体の中の自分であり、日本大学としての同一性をもちたいという欲求の表れかもしれません。

図14 領域別満足感(とても満足+どちらかと言えれば満足%)

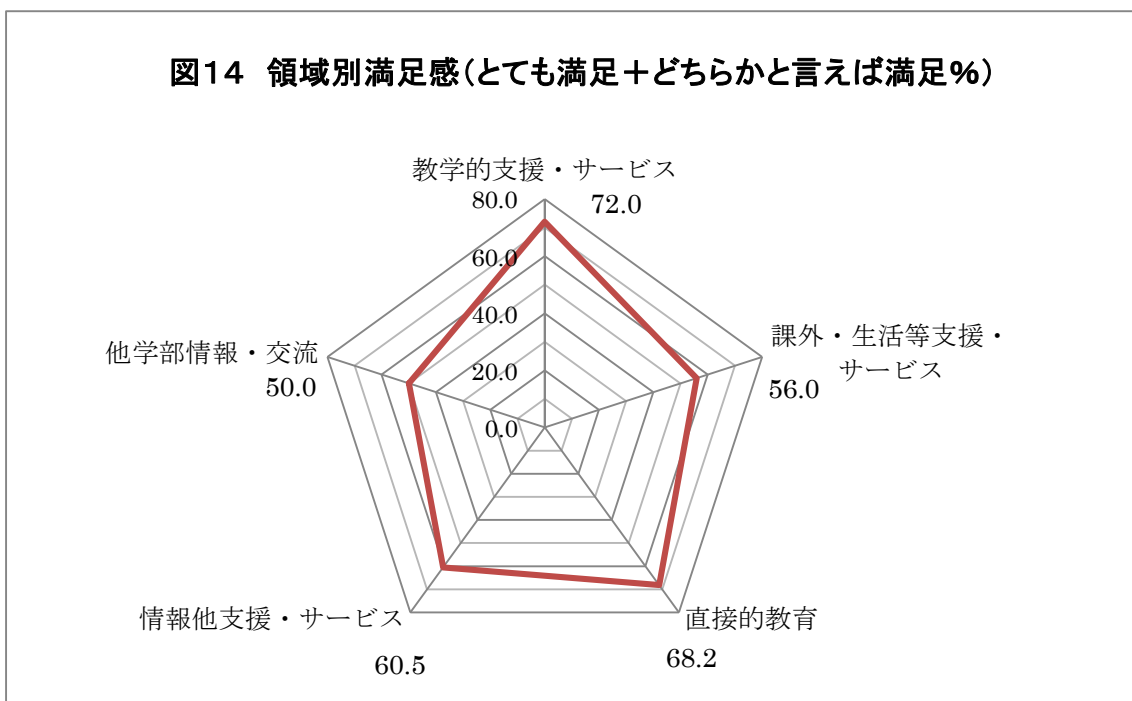
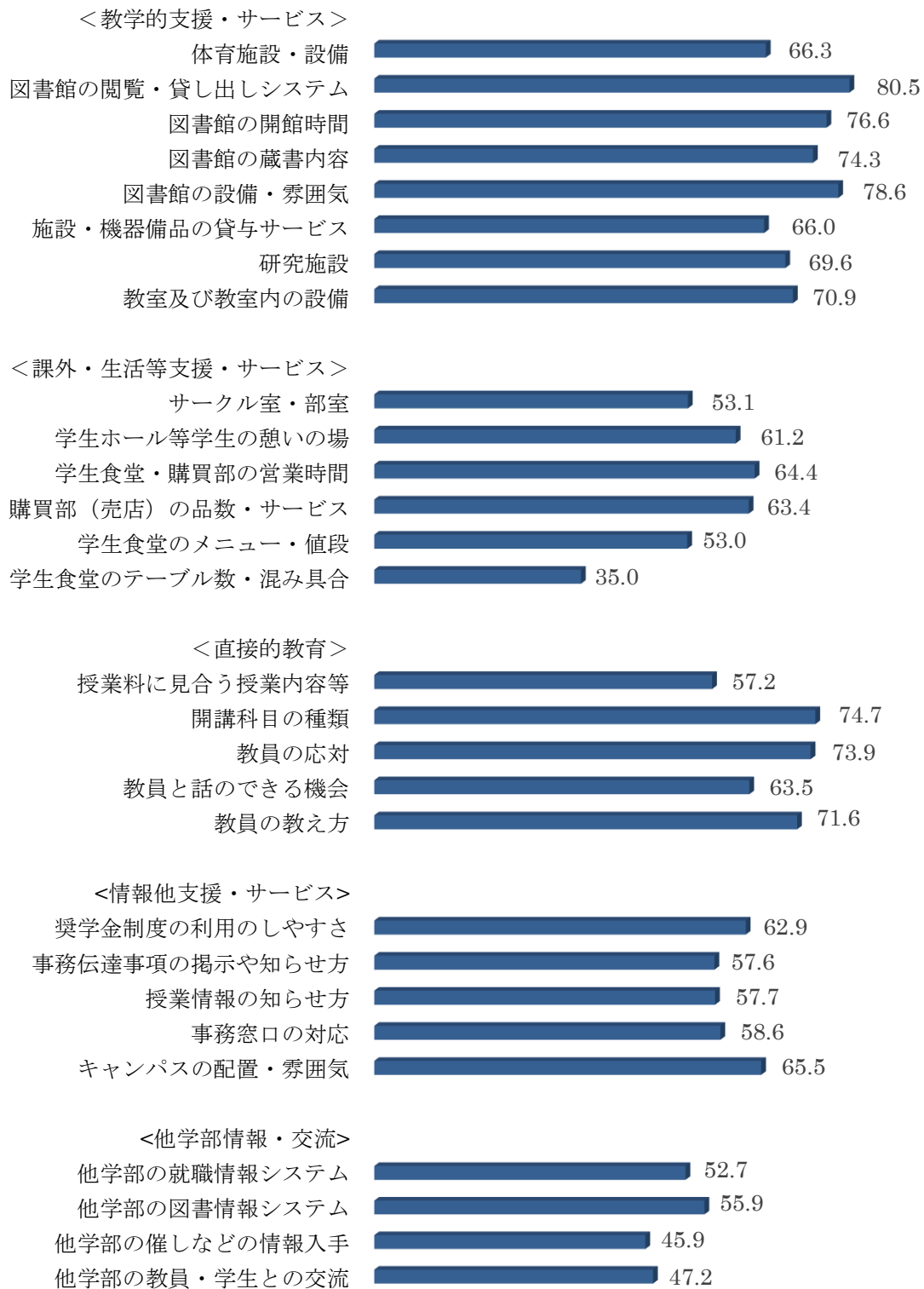


図15 平成27年度支援・サービス満足感
(とても満足+どちらかと言えば満足の%)



★学祖と日大生の誇り

日本大学の学祖は山田顕義ですが、この名前を知っているということは、日本大学学生の同一性に関係すると思われます。

*学祖名を知っている学生は日大生であることを誇りに思っている。

*「日大生であることに誇りをもっている」学生は自主創造力を身につけている。

約6割の学生が「学祖名を知っている」と答えています。「学祖名を知っている」学生は「日大生であることに誇りをもっている」と関連するというのは自然なことと思われます。このことは日本大学学生という同一性を表していることになると思われます。日本大学学生であることは大学が勧める自主創造とも深く関わると思います。日大生であることに誇りをもつ学生は、もたない学生より自主創造力を身につけているのかを見てみました。大きな数値ではありませんが、「日大生であることに誇りをもっている」学生は自主創造力の各項目で高い値を示しています。学祖名を知る、日大生であることの誇りは、共に日本大学の建学精神を知ることであり、学びへの積極性が生まれるのではと思われます。

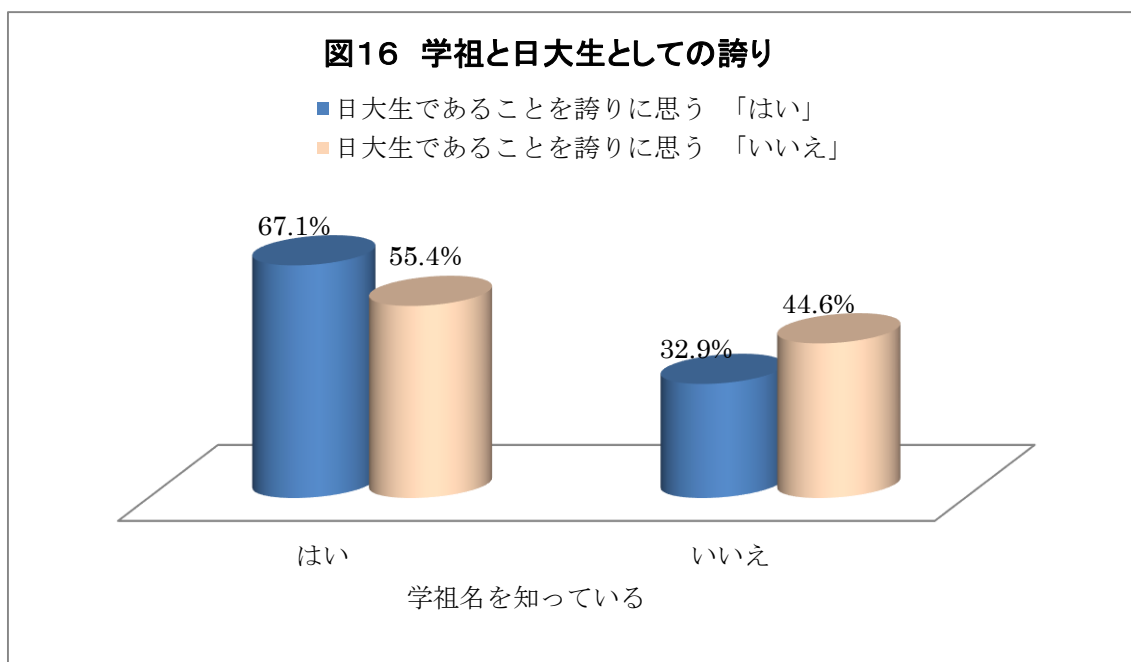


図17 日大生の誇りと自主創造力(%)

